

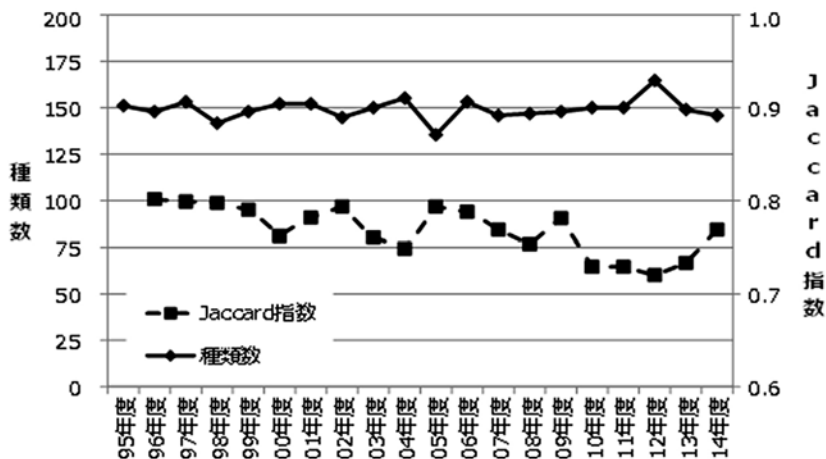
報告書『東京の野鳥たち 月例探鳥会7か所・20年間の記録』からよめること・2  
探鳥地ごとの種類数

前回4月号には、月例探鳥会7か所全体では20年間で「種類数」はそれほど変わらないけれど「個体数」は半分くらいに減少してしまっている、と紹介しました。ここでは、それほど変わらないとされた「種類数」についてもう少しみてみましょう。

「種類数」は7か所全体で20年間に226種類が記録されましたが、1年あたりだと平均149.4種類でした。20年の間では136種類から164種類まで増減しましたがおおむね同じ水準で、種類数の増減の傾向ははっきりしませんでした（【図】の -◆- ）。では、この種類数の内訳＝「種構成」はどうなっているのでしょうか。

「種構成」が変化しているかどうかを確かめるために、調査を開始した1995年度とそれぞれの年度で確認された種類の共通性を計算しました。ここではJaccard指数(\*)という値を使いました。Jaccard指数が大きければ1995年度との種構成の共通性が高く、小さければ共通性が低くなります。そうすると20年間の間に、徐々にJaccard指数は小さくなる傾向がみられました（【図】の -■- ）。つまり、調査を開始した1995年度と比べて種構成が変わってきているということになります。

どんな種類が見られなくなり、どんな種類が見られなくなったかというのは探鳥地ごとに異なりますが、全体でみるとこの20年間で種類の「数」はそれほど変わらないけれど、だんだん見られる鳥の種類構成が変わってきているようです。 (御手洗 望)



【図】 年度ごとの出現種類数・年度ごとの1995年度との類似性の推移(月例探鳥会7か所全体)

\* Jaccard指数 =  $C / (A+B-C)$

A: 1995年度の種類数 B: 比較する年度の種類数 C: 比較する2ヶ年度で共通する種類数

報告書『東京の野鳥たち～月例探鳥会7か所・20年間の記録』は、当会が毎月開いている10か所の探鳥会のうち、東京にある7か所(葛西臨海公園・東京港野鳥公園・清澄庭園・明治神宮・多磨霊園・高尾山・多摩川)の20年間の探鳥記録をまとめたものです。

〔A4判・129ページ・2016年刊〕 頒価700円(送料別) ★ご希望の方は事務局にお申し込みください